



平成25年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年10月5日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 吉野家ホールディングス

コード番号 9861 URL <http://www.yoshinoya-holdings.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河村 泰貴

問合せ先責任者 (役職名) 社長室長 (氏名) 斎藤 公利

四半期報告書提出予定日 平成24年10月12日 配当支払開始予定日 TEL 03-4332-9701

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無 平成24年11月12日

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年2月期第2四半期の連結業績(平成24年3月1日～平成24年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年2月期第2四半期	81,150	0.6	1,472	△29.0	1,819	△14.3	315	△56.3
24年2月期第2四半期	80,687	△5.6	2,073	131.0	2,122	80.9	721	—

(注)包括利益 25年2月期第2四半期 341百万円 (△32.1%) 24年2月期第2四半期 503百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年2月期第2四半期	614.00	—
24年2月期第2四半期	1,433.00	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年2月期第2四半期	95,218	44,629	46.2	85,502.00
24年2月期	94,371	45,584	46.7	85,835.00

(参考)自己資本 25年2月期第2四半期 43,943百万円 24年2月期 44,114百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年2月期	—	1,000.00	—	1,000.00	2,000.00
25年2月期	—	1,000.00	—	—	—
25年2月期(予想)	—	—	—	1,000.00	2,000.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年 2月期の連結業績予想(平成24年 3月 1日～平成25年 2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	166,000	0.1	2,900	△39.6	3,200	△39.8	400	△69.5	778.00

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ― 社 （社名） 、 除外 ― 社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | ： 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | ： 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | ： 無 |
| ④ 修正再表示 | ： 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

25年2月期2Q	662,405 株	24年2月期	662,405 株
----------	-----------	--------	-----------

② 期末自己株式数

25年2月期2Q	148,459 株	24年2月期	148,459 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

25年2月期2Q	513,946 株	24年2月期2Q	503,942 株
----------	-----------	----------	-----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	P. 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	P. 3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	P. 3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 4
(4) 追加情報	P. 4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	P. 4
4. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
四半期連結損益計算書	P. 7
四半期連結包括利益計算書	P. 8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(4) 継続企業の前提に関する注記	P. 11
(5) セグメント情報等	P. 11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	P. 12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間は、消費税増税への懸念などによる節約志向や消費者の外食を控える傾向が依然として強く、当社グループにとって厳しい事業環境が続いております。このような環境の中、当社グループは、国内においては「充実」をキーワードに、グループ各社それぞれの強みをさらに伸ばし、新しいビジネスモデルの構築に邁進してまいります。また、海外では、中国でのブランド認知が進み、出店を加速する準備が整ったため、「成長」をキーワードとして、本格的な事業展開への取組みを開始いたします。当期、吉野家ホールディングスでは、グループ商品本部においてはグループ各社がそれぞれに持つコンテンツや素材を活かしたメニュー開発、工場や物流の仕組みを変えていくための準備を進めております。一方、グループ開発本部においては物件開発力や技術力を融合させ、コスト低減や業務効率向上を実現してまいります。当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、連結売上高は、前年同四半期と比べ4億63百万円増加し、811億50百万円となりました。利益につきましては、原材料価格の高騰等の影響から連結営業利益14億72百万円、連結経常利益18億19百万円、連結四半期純利益は3億15百万円となりました。

連結売上高	811億50百万円	(前年同四半期連結売上高	806億87百万円)
連結営業利益	14億72百万円	(前年同四半期連結営業利益	20億73百万円)
連結経常利益	18億19百万円	(前年同四半期連結経常利益	21億22百万円)
連結四半期純利益	3億15百万円	(前年同四半期連結四半期純利益	7億21百万円)

セグメント概況につきましては、次のとおりであります。

《国内吉野家》

国内吉野家は、新しい「商品価値」「サービス価値」を創造し、この新しい価値を表現するビジネスモデルの構築に取り組んでおります。商品については、外食業界各社の競争の激化は続いておりますが、吉野家はお客様の期待に応えられるようなオリジナリティのある商品を開発し、商品品質を磨き上げてまいります。サービスについては、店舗の内外装、ドライブスルーの設置などお客様が利用しやすい環境整備を進めており、この次世代型店舗へ当期末までに100店舗以上の転換を計画しております。一方で、損益分岐点を引き下げ、店舗生産性の向上と「うまい」と「はやい」の実現を目指した収益モデル店舗の実験と検証も進めております。

販売施策は、5月にさらなる「こく」と「香り」を追求した「こく旨カレー」と「旨辛カレー」、6月に夏季限定商品である「鰻丼」、7月には厳選の塩と五穀酢で仕上げた「焼味ねぎ塩豚丼」を続けて発売いたしました。しかし消費者の外食を控える傾向が続き、また主要原材料の高騰により、売上高は437億95百万円、セグメント利益は14億42百万円となりました。店舗数は、新たに8店舗を出店し、不振店等9店舗を閉鎖した結果、1,188店舗となりました。

国内吉野家売上高	437億95百万円	(前年同四半期 売上高	436億49百万円)
国内吉野家セグメント利益	14億42百万円	(前年同四半期 セグメント利益	22億73百万円)

《海外吉野家》

海外吉野家は、中国を中心とした出店が引き続き順調に推移したものの、円高の影響等もあり、売上高は48億79百万円、セグメント損失は1億37百万円となりました。

店舗数は、米国2店舗、中国大陸38店舗（上海6店舗、深圳3店舗、北京22店舗、遼寧4店舗、呼和浩特2店舗、黒龍江1店舗）、香港6店舗、台湾3店舗、シンガポール1店舗、インドネシア5店舗、タイ2店舗を開店いたしました。合計57店舗を出店し、不振店13店舗を閉鎖した結果、534店舗となりました。

海外吉野家売上高	48億79百万円	(前年同四半期 売上高	51億96百万円)
海外吉野家セグメント損失	1億37百万円	(前年同四半期 セグメント損失	46百万円)

《京樽》

京樽は、既存店の販売力の強化や、既存商品の品質向上と次世代に向けた創作鮨の開発等を積極的に進めてまいりました。4月には、テイクアウトの新業態「KYOTARU DELI」をオープンし、顧客層拡大に向けた売上向上施策をスタートさせ、テイクアウト店舗「すし三崎港」では、江戸前鮨の販売強化を図りました。また、外食およびテイクアウトの全店舗で毎月実施した「99円セール」などにより、新しい価値の創造に注力してまいりました。

これらの結果、売上高は122億43百万円、セグメント利益は1億49百万円となりました。店舗数は、3店舗を出店し、不振店等11店舗を閉鎖した結果、342店舗となりました。

京樽売上高	122億43百万円（前年同四半期 売上高	114億22百万円）
京樽セグメント利益	1億49百万円（前年同四半期 セグメント損失	4億37百万円）

《どん》

どんは、お客様にとっての快適性や利便性と、商品の品質や従業員の生産性を追求するとともに、新しい価値作りのための新メニュー開発を各業態で行いました。3月、4月には「フォルクス」業態において7店舗で全面改装を実施し、お客様の快適性を向上させることができました。8月には「ステーキのどん」全店にて「食べ放題」を実施し、「どん亭」業態においては、全店に二色鍋のメニューを導入し、新規顧客獲得に取り組みしました。

これらの結果、売上高102億88百万円、セグメント利益52百万円となりました。店舗数は、国内に1店舗を出店し、5月には台湾に「フォルクス 台北敦南店」を海外2号店としてフランチャイズ店舗にて出店いたしました。また、国内3店舗を閉鎖した結果、171店舗となりました。

どん売上高	102億88百万円（前年同四半期 売上高	103億68百万円）
どんセグメント利益	52百万円（前年同四半期 セグメント利益	2億92百万円）

《はなまる》

はなまるは、客数増加に向けた取組みとして、QSCの更なる向上と、魅力的な季節商品の導入を前期に引き続き行ってまいりました。4月には期間限定で野菜をしっかりと召し上がりいただける「コクうまサラダうどん」を発売。この他に、夕食時間帯の客数増加に向けた店舗実験や、「健康」をキーワードとした商品の開発・検証なども進めてまいりました。これらの結果、売上高80億7百万円、セグメント利益3億66百万円となりました。店舗数は、国内に13店舗、中国に3店舗を出店し、国内の不振店4店舗を閉鎖した結果、324店舗となりました。

はなまる売上高	80億7百万円（前年同四半期 売上高	74億88百万円）
はなまるセグメント利益	3億66百万円（前年同四半期 セグメント利益	2億37百万円）

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ8億46百万円増加し952億18百万円となりました。負債は、前連結会計年度末に比べ18億2百万円増加し505億89百万円となりました。純資産は、前連結会計年度末に比べ9億55百万円減少し446億29百万円となり、自己資本比率は、前連結会計年度末比0.5ポイント減少し46.2%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年2月期の連結業績予想につきましては、平成24年4月13日の決算短信発表時に公表いたしました数値から修正しております。

なお、詳細につきましては、平成24年9月25日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,299	16,984
受取手形及び売掛金	3,227	3,423
商品及び製品	1,949	1,947
仕掛品	37	34
原材料及び貯蔵品	1,645	1,904
その他	2,652	2,578
貸倒引当金	△5	△7
流動資産合計	26,805	26,864
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	25,131	25,809
その他（純額）	13,719	13,513
有形固定資産合計	38,851	39,323
無形固定資産		
のれん	214	1,611
その他	2,806	2,635
無形固定資産合計	3,020	4,246
投資その他の資産		
投資有価証券	877	963
差入保証金	15,581	15,469
繰延税金資産	1,117	948
その他	8,328	7,596
貸倒引当金	△212	△194
投資その他の資産合計	25,693	24,783
固定資産合計	67,565	68,353
資産合計	94,371	95,218

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,865	5,424
短期借入金	14,831	11,275
1年内返済予定の長期借入金	4,454	5,286
リース債務	873	882
未払法人税等	978	614
賞与引当金	1,480	1,201
役員賞与引当金	87	56
株主優待引当金	184	170
資産除去債務	14	13
その他	7,261	7,989
流動負債合計	34,032	32,915
固定負債		
社債	—	750
長期借入金	7,972	10,373
リース債務	1,064	1,052
退職給付引当金	572	586
資産除去債務	2,300	2,327
その他	2,844	2,583
固定負債合計	14,754	17,673
負債合計	48,787	50,589
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,265	10,265
資本剰余金	11,139	11,139
利益剰余金	42,689	42,491
自己株式	△18,089	△18,089
株主資本合計	46,005	45,807
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△11	△15
為替換算調整勘定	△1,879	△1,848
その他の包括利益累計額合計	△1,891	△1,863
少数株主持分	1,469	685
純資産合計	45,584	44,629
負債純資産合計	94,371	95,218

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)
売上高	80,687	81,150
売上原価	27,331	28,863
売上総利益	53,355	52,286
販売費及び一般管理費	51,282	50,814
営業利益	2,073	1,472
営業外収益		
受取利息	25	23
受取配当金	47	47
貸貸収入	214	235
持分法による投資利益	8	102
雑収入	266	446
営業外収益合計	562	855
営業外費用		
支払利息	232	210
貸貸費用	137	194
雑損失	143	103
営業外費用合計	512	509
経常利益	2,122	1,819
特別利益		
固定資産売却益	44	—
評定済資産戻入益	27	—
貸倒引当金戻入額	30	—
負ののれん発生益	809	—
特別利益合計	912	—
特別損失		
固定資産除却損	116	—
減損損失	330	517
契約解約損	—	32
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	1,165	—
災害による損失	152	—
その他	72	—
特別損失合計	1,836	550
税金等調整前四半期純利益	1,198	1,268
法人税、住民税及び事業税	582	675
法人税等調整額	102	283
法人税等合計	685	958
少数株主損益調整前四半期純利益	513	309
少数株主損失(△)	△208	△5
四半期純利益	721	315

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	513	309
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7	△5
為替換算調整勘定	△2	37
その他の包括利益合計	△9	32
四半期包括利益	503	341
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	709	343
少数株主に係る四半期包括利益	△205	△1

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,198	1,268
減価償却費	2,830	2,768
のれん償却額	21	60
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△100	△15
賞与引当金の増減額(△は減少)	△75	△279
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△21	△30
株主優待引当金の増減額(△は減少)	2	△14
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△77	13
受取利息及び受取配当金	△72	△71
支払利息	232	210
持分法による投資損益(△は益)	△8	△102
投資有価証券売却損益(△は益)	19	—
固定資産除売却損益(△は益)	73	—
減損損失	330	517
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	1,165	—
災害損失	152	—
負ののれん発生益	△809	—
売上債権の増減額(△は増加)	456	△195
たな卸資産の増減額(△は増加)	201	△248
仕入債務の増減額(△は減少)	△88	1,554
その他	△822	657
小計	4,606	6,093
利息及び配当金の受取額	59	62
利息の支払額	△239	△201
法人税等の支払額	△966	△1,076
法人税等の還付額	69	5
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,529	4,883

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△115	△129
定期預金の払戻による収入	15	28
有形固定資産の取得による支出	△2,262	△3,662
有形固定資産の売却による収入	215	424
無形固定資産の取得による支出	△51	△91
有形固定資産の除却による支出	△42	—
資産除去債務の履行による支出	△82	△45
投資事業組合分配金による収入	75	—
差入保証金の差入による支出	△288	△355
差入保証金の回収による収入	469	424
貸付けによる支出	△1,169	△114
貸付金の回収による収入	64	103
投資不動産の売却による収入	—	982
関係会社株式の取得による支出	△34	△1,988
関係会社株式の売却による収入	120	—
関係会社出資金の払込による支出	△14	△259
その他	41	13
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,060	△4,670
財務活動によるキャッシュ・フロー		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△532	△518
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,438	△3,558
長期借入れによる収入	2,160	5,845
長期借入金の返済による支出	△2,293	△2,618
社債の発行による収入	—	750
社債の償還による支出	△300	—
自己株式の取得による支出	△199	—
配当金の支払額	△506	△518
少数株主への配当金の支払額	△27	△26
財務活動によるキャッシュ・フロー	△260	△644
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	15
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	211	△416
現金及び現金同等物の期首残高	15,384	17,062
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,596	16,645

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成23年3月1日 至 平成23年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	国内 吉野家	海外 吉野家	京樽	どん	はなまる	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	43,264	5,196	11,419	10,368	7,488	77,737	2,949	80,687	—	80,687
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	385	—	2	—	—	387	425	812	△812	—
計	43,649	5,196	11,422	10,368	7,488	78,125	3,374	81,500	△812	80,687
セグメント利益 又は損失 (△)	2,273	△46	△437	292	237	2,318	△1	2,317	△244	2,073

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社5社を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△244百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△970百万円、セグメント間取引消去747百万円、及びのれんの償却額△21百万円が含まれております。

3 セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「京樽」セグメントにおいて、平成23年7月1日に実施いたしました株式交換に伴い、負ののれん発生益を計上しております。当第2四半期連結累計期間における当該事象による負ののれん発生益の計上額は、809百万円となっております。なお、報告セグメントごとのセグメント利益又は損失 (△) には、負ののれん発生益は含まれておりません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	国内 吉野家	海外 吉野家	京樽	どん	はなまる	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	43,005	4,879	12,240	10,259	8,007	78,393	2,757	81,150	—	81,150
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	790	—	3	28	—	821	267	1,089	△1,089	—
計	43,795	4,879	12,243	10,288	8,007	79,214	3,025	82,239	△1,089	81,150
セグメント利益 又は損失(△)	1,442	△137	149	52	366	1,874	△43	1,830	△358	1,472

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社5社を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△358百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,034百万円、セグメント間取引消去701百万円、及びのれんの償却額△25百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「はなまる」セグメントにおいて、平成24年6月28日に実施いたしました株式の追加取得に伴い、のれんの金額に重要な変動が生じております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては1,232百万円であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。